

779.3-H367



779.3
H.36

奇術徒然草

長谷川智著



始



94
11



繪挿の(版年四明天)種待日術仙
書古の日番三十第國が我

奇術怪草

奇術研究と
不思議趣味
長谷川

智

これは私のノートの抜き書きである。

奇術に関する事なら、聞いた事、見たこと、讀んだ事、そして考へた事
思つた事何でもよし、とばかりに書き込んだのが丁度四冊になつた。その
中から、いゝかげんに少しばかり選り出して見たのだから、連絡もなし一
貫した意志も無い。

あわたゞしい生活の中にボツツリと浮び上つた趣味の泡ぶくである。

獨りよがり忙さへなつてゐないやうだ。

凡例

- は單獨記事
- は前の○印記事に關係深いもの

奇術つれづれ草
もくじ

奇術とは何か	一頁
奇術の發端	二頁
奇術の歴史	三頁
奇術の文獻	四頁
奇術の言語	六頁
宗教と奇術	七頁
醫學と奇術	九頁
生命と奇術	九頁
科學と奇術	九頁
政治と奇術	一〇頁
戦争と奇術	一〇頁
迷信と奇術	一一頁
心靈現象と奇術	一一頁
犯罪と奇術	一二頁
情事と奇術	一三頁
忍術と奇術	一六頁
奇術隨想	一七頁
奇術家	一七頁
奇術會	一八頁
奇術の讀	一九頁

奇術とは何か

○本來「奇術」とは「不思議を造る方法」又は「造られた不思議」を指す言葉で、現在のやうに、「手品、手妻」などと呼ばれる娛樂的奇術のみ稱したものではない。

長谷川 智



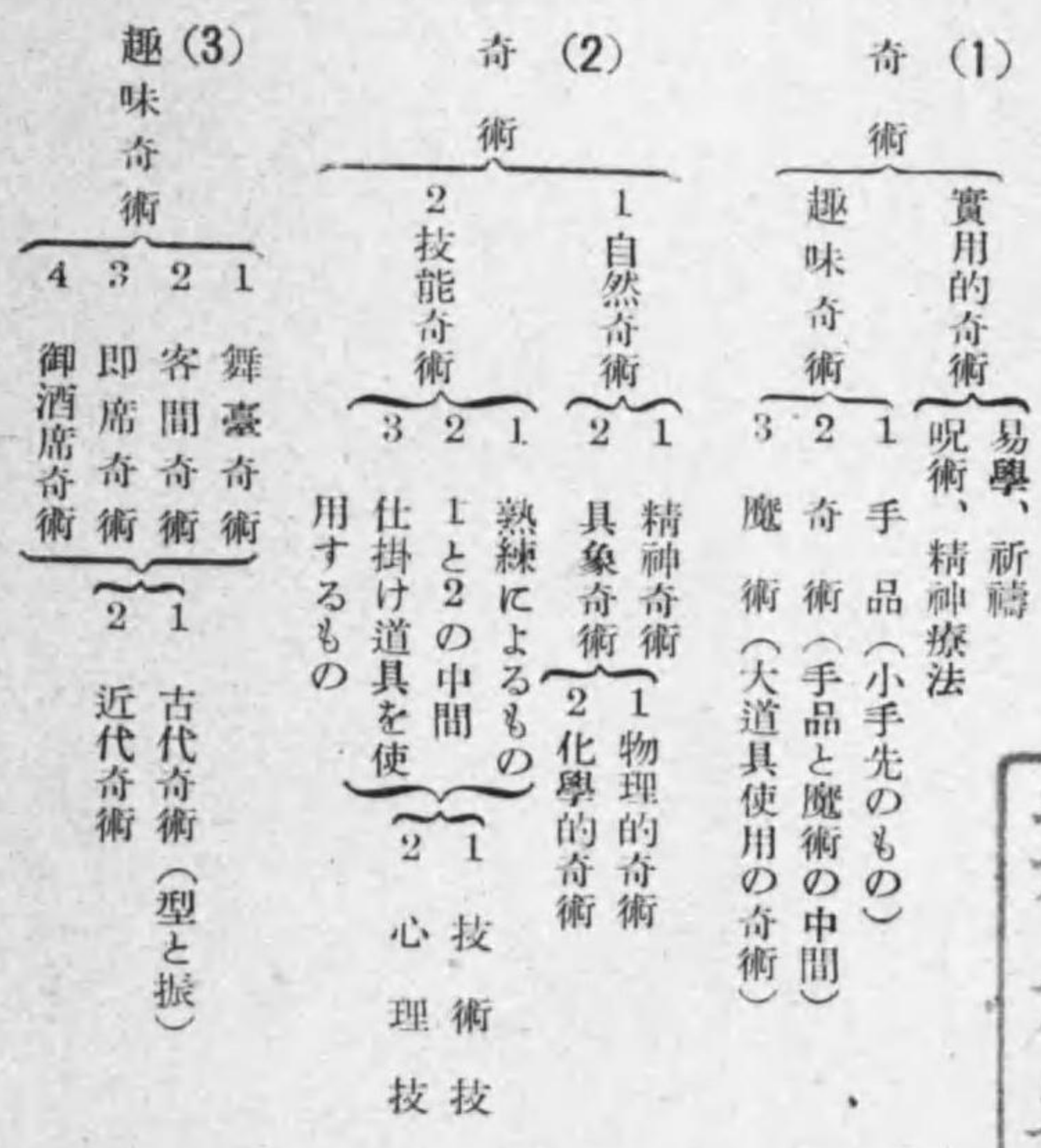
○娛樂奇術にのみ、専ら「奇術」の語を使用するやうになつたのは極めて最近である。

○昔時の理念からすれば少くともその現象の大部分が、人爲による實驗的觀念に原因をもとづかしめるものであれば、それらは總て奇術の一語で總稱される。例へば、偶發的心靈現象は奇術で無いが、同じ外見を有してゐても何人かの豫

測なり準備なり期待、又はそれらに類似するものが、些少でも含まれた場合、及び實驗的心靈現象は總て奇術と稱し得る。同じ意味で易斷も祈禱も催眠術も、そして忍術から氣合術のたぐひまで、總て奇術である。(「奇術である」といふ事と「詐術である」といふ事を同じものに思つてゐる人があるが、これは全然別個のものである。)

著者寄贈本

○奇術を分類するとこんな具合になる)



○手品、手妻などは、奇術の全取ではないが、最も多くの人々を害なく樂しましめる最善の奇術である。

奇術の發端

○奇術の發端は治病術である。
○初め奇術は、信仰や醫學と同體であつた。



人名棋將村木、爵侯川德央中 會年新C.M.A.T

○我國醫道の祖
少彦名命
の異名といは
れる『久志之
加美』は『奇
神』『藥神』に
通じ、禁脈醫
療の術を『く
し』と稱へた
事も『奇術』
に密接不離の
關係がある。
○我々が今日愛
好してゐる趣
味奇術は、魔
法から分離又



日本古風奇術

人々が、魔法使ひと奇術師を區別する智識に乏しかつた事が錯誤の原因

は變化
したも
のであ
るとな
す説が
あるが、
これを
全面的
に否定
する事
は出来
ないと
しても
そんな
事實は
微々た
るもの
でしか
ない。
當時の

921
112

奇術の歴史

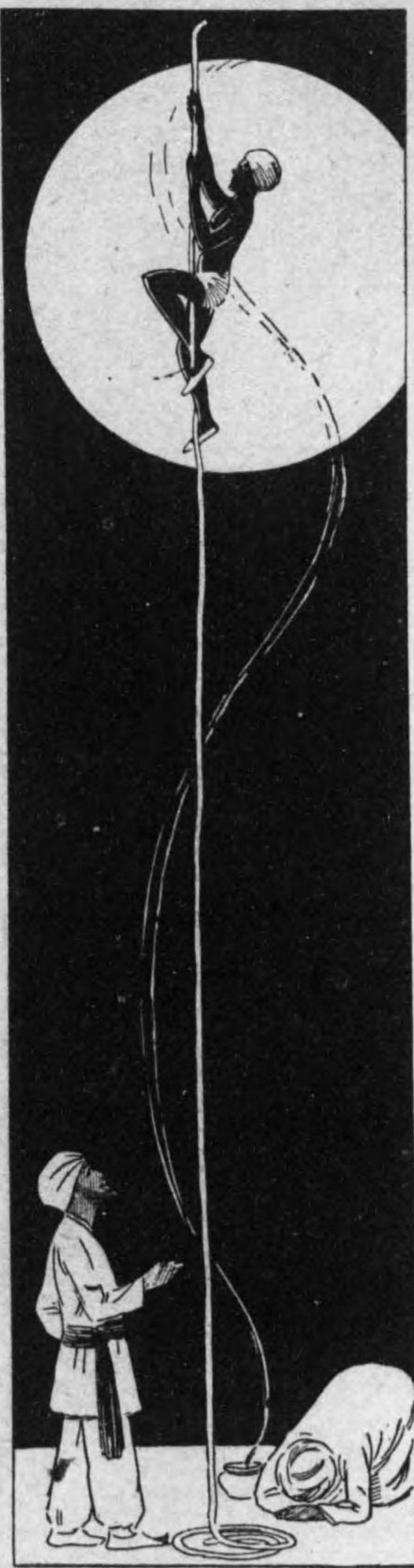
である。

○手品使ひの宗祖に就て『遊藝起原』に珍説がある。原田芳五郎著、博文館、明治二十五年發行。『天正以前、美濃國岐阜ノ人デ瀧野正藏（後ニ瀧川正太ト改名）ト云フ者ガ最初ノ手品使ヒラシイ』と。

○廣い意味の奇術史には、宗教家と錬金術師と化學者と政治家が出場せねばならぬ程大である。

○興業的奇術の最古のものは紀元前二、三百年頃にギリシヤやエジプトにあつた。この時分の奇術は『燃えてゐる火を食べ』たり『刀を用ひ』たり、或ひは『猛獸を扱ふ』たりする我國の氣合術や法術と同一のものであつた。

○右と略同時代にエジプトのナイル川の河口アレキサンドリヤに住んでゐた物理學者が己れの知識を應用して多くの面白い奇術を創つた。この奇術は、今日世界の奇術趣味家達によつて行はれてゐるものと非常に類似



術奇ア-ロのギヨ度印

○魔術が日本へ渡來したのは、奈良朝時代に支那から來たもので、大抵種のある手品の類が多かつたやうだ。
○奇術輸入は佛敎の渡來と同時に行はれたものが最大である。
○日本に於ける最初の興業奇術師は僧侶であつたらしい。方便から變轉した形勢が多分にある。
○奇術材料をデパートに於て販賣した我國當初の人はジョーチ高橋氏である。昭和四年大阪三越。
○東京に於てデパートに賣出したのは松旭齋天洋氏を以て嚆矢とする。
○日本で奇術材料販賣業の濫觴は、神戸湊川神社境内にゐた青木某と云へる人。彼は元船乗りであつて、航行中各國で覺えた奇術を原にして色々材料を自製しつゝ販賣したとの由である。
○技藝者が主催で開催した慈善演藝會は、奇術師ジャグラ操一氏が最初

である。明治廿一年七月東京に於て。

ジャグラー操一氏の子孫は、現在大阪南區高津十番町に住居する一陽齋正一、宮田源之助氏一族である。

○外國人の奇術家が、日本へ興業にやつて來たのは明治九年、ジョンマルコムJohn Marlowの來朝を以て嚆矢とする。

○當時の日本人奇術師としては、歸天齋正一が居た。その後同一座を松旭齋天一がひきつれて渡

米し、歸朝後明治卅八年歌舞伎座で上演した。日本人が洋風の奇術を演じたのはこれが最初である。

○先頃引退した初代天勝はこの天一一座の花形であつた。

○我が國へ事實上の奇術手品研究會が設立されたのは大正初期である。



世界第一の奇術雑誌發行者ホルマドン夫人を迎へてのC・M・A・T有志



最近の初代天勝の素瓶

奇術の文献

○奇術の最古の文献は、現在ロンドンの博物館に秘藏されて居るウイストカー・パピロニスWidstenker Papyrusに記されてゐる約六千年前のものである。

○東洋の文献では、主として佛敎關係に多く、約二千年前の『法苑珠林』といふ書物の第六十四章(?)呪術篇に奇術の如きものが記されてゐる。

○我國の娛樂奇術の種あかし本は、

『神仙戲術』(陳眉公著、正徳五年)

『珍術さんげ袋』(多賀谷還中仙著)

『萬世秘事枕』(早水兼山著、享保年間)

などが發見された最古のものである。

○西洋では、

『妖術の開示』(レチナルド・スコット著、西歴一五八四年)

『數學及機械器具

の劇場』(一五九

六年、フランスの

リヨンで發行)

『手品の解剖』

(ヘンリー・ポー

ン著・一六三四年)

などが最古のタネ

本であるらしい。

○奇術書の題號には

奇術と關聯せる諸

々の事象を暗示し

て面白いものがあ

る。(和書)

●璣訓蒙鑑草(享

保) ●忍道大乘通 ●佛道方便品 ●放下筌(寶歴) ●天狗通(安永) ●仙

術日まち草(天明) ●施本秘術百撰(文政) ●風流秘事袋 ●神僊妙術錦

囊奇巧撰 ●神仙妙術錦囊秘卷(天保) ●極秘口傳清書重寶記 ●秘方集 ●

秘方智慧海 ●紅毛奇妙術 ●蘭法奇藥妙術集 ●阿蘭陀細工秘傳 ●長崎傳來



旅奇術師(メアリカ古畫)

智慧の海(安政) ●妙

術智慧加々美(文久)

●御伽秘事枕(明治)

●西洋魔法鏡(明治)

○『博物志』(プリニウ

ス著)は古代に於ける

知識の寶庫である。そ

の中には相當量の虚妄

が含まれてゐるが、奇

術を研究する者にとつ

て一讀の價値があるさ

うだ。

○中世紀に於て最も有名

であつた魔術師のアル

ベル・ル・グランの遺作の中に『草木、金石、物動等に關する魔術』が

記載されてゐる。これは手品ではない。

○奇術雜誌で世界最大のものに、米國の「スフィンクス」(The Sphinx)が

あり、ドイツには「マジ」(MAGIE)がある。我が國には、雜誌「奇術」

とリーフレット「奇術界報」の二つがある。

いづれも會員配布組織である。



手品乗つてゐる圓靈と魔法

奇術の言語

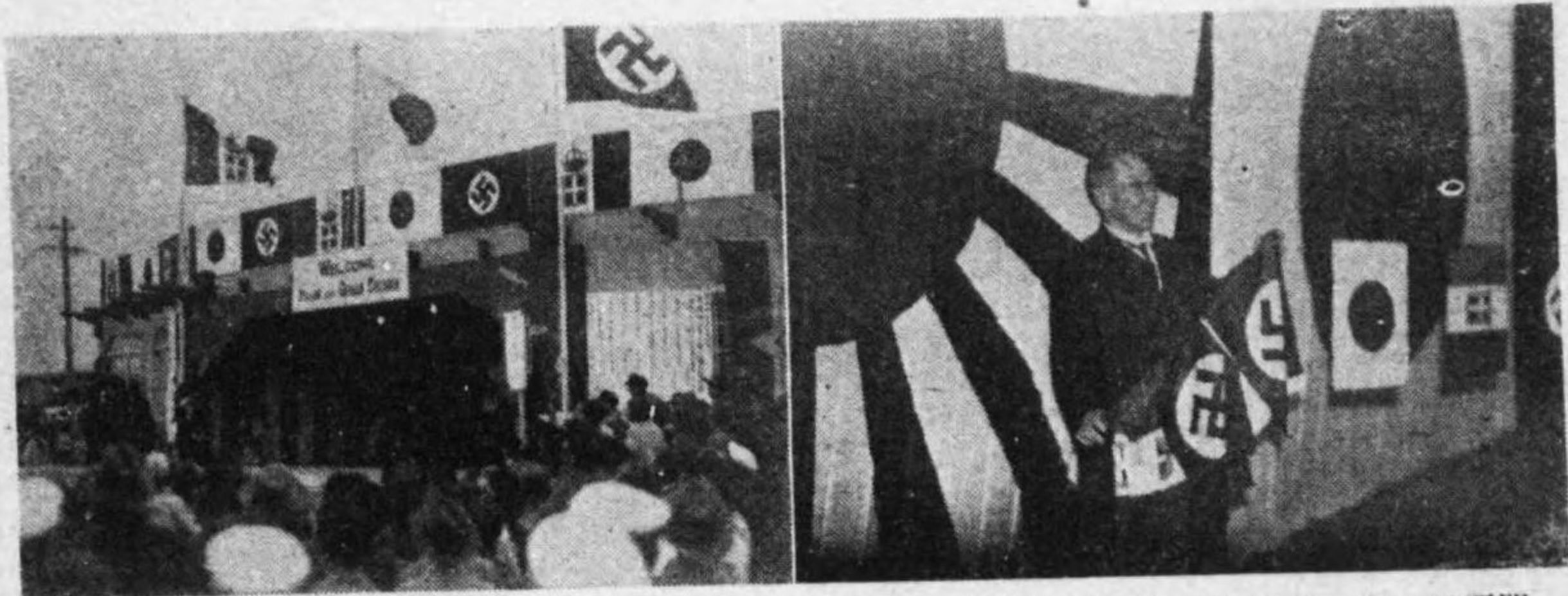


氏孝澤金右ていお人一氏六莊村木央中 影撮念記會大のブラクスンアシチマ・アユチマア山歌和

○『奇術』といふ言葉は現在専ら娯楽奇術、趣味奇術を指して用ひられてゐるが、古昔は、『不思議な術』全般に對して用ひられたらしく、新古の版畫に、手妻、忍術、居合術、氣合術、曲藝に對し、一様に奇術の一語で總括してゐるものがある。

○『魔術』は英語の『マジック』から變化したらしく、その間に『まじなひ』の語も關係してゐる。

○我が國の最古の『魔術』の語は謡曲にある。



會大驩交女少伊獨日 クーバ神阪くじ同 々佐長々會友陽スンアシチマ・アユチマア西園 (演出ルケ於=堂會公島之中阪大) 氏郎三清木

○『マジック』(magic)の語の起源は、ギリシヤのマゲイア(Mageia)マジック(魔法)ラテン語のマジカ(magia)ドイツ語のマジギー(magie)であり、その本来の意味は、ゾロアスター教の祭司、又はペルシヤのマジの宗教知識宗教儀式に關係してゐるものである。

ギリシヤ語のマゲイア、マジカは『賢者』の意味に解せられ、キリスト教徒時代のマゲイア、マジカは『奇術者』を意味し、(マゲウオは奇術を行ふ事)マジカス(magos)はゴエス(goes)と同義で奇術者の意味である。

○『マジック』を漢字に當てはめて『魔術』『咒術』としたと考へて差支へないやうに思へる。

○趣味奇術を現はすものに左の諸語がある。

- 放下 ● 戲術 ● 秘事 ● 珍術 ● 機關 ● 仙術 ● 外術 (奈良朝時代)
- 手妻 ● 玉手妻 ● 妙術 ● 調法

秘方 ● 奇妙術 ● 御伽術 ● 手術 ● 魔術 ● 西洋魔法 ● 品玉 ● 手玉 ● 幻戯 ● 幻技 ● 手品 ● 幻術 (足利時代) ● 珍曲 ● 神秘術 (阿部徳藏氏) ● 奇術

○『放下』諸縁を放擲して無我に入るの意で轉じて『奇術』の意味になった。禪家の語。『放歌』とも書く。昔時は曲藝なども演じたらしく『看聞御記』嘉吉元年四月八日の條に『放歌參。手鞠、龍子、品玉等施藝。有甚興』とみえてゐる。

○『放下』の文字は謡曲にもある。(緒方秀雄著『放下漫録』参照)

○『魔術』は娯楽的意味の深い言葉である。

○『魔法』は通常悪魔が用ひるので悪意がある。

併し『白き魔法』といふと『テレベスト』のプロセスペロのそのの如き、世のため人の爲に行ふ善き意味をもつ。

○『手妻』の『妻』は稻妻の妻と同じやうに、電光石火の素早い業を現はすものらしい。

○『手品』とは a slender hand 細やかな手、の意味である。『品』は『娯やか』の意味。

○ magic (マジック) 魔法、魔術、奇術、手品、不思議な魅力あるなどと用ふ。

Hokky Poky (ホウキボウキ) (ホウキボウキ) 古い言葉で手品といふ事。

Trick (トリック) 手品、早業、コツ、仕掛、右を動詞にしても使ふ。

Conjurers Tricks (カンヂヤース、トリックス) 手品、手妻。

Conjuration (コンジュア・レイション) 魔法、呪文。

宗教と奇術

○古代、宗教家は奇術(主として自然奇術)を以て神靈の力を示し民衆善導に利用した。その頃の宗教家の多くは、彼等自身奇術を全く神佛の力に依る現象と信じてゐた。

○中古に至り幾つかの人爲的奇術(方便術)が加へられた。これは中古の九パーセントの宗教に共通した世界的事實である。

○世界の總ゆる宗教の内、方便的思想の無いものに日本の神道がある。神道行事のお火渡りやくがだち等の思想は眞に純正なものであつた。

○古來、禁厭祈禱に類するものは、大抵出雲系の神道に其端を發してゐるが、その内容には、方便思想や、詐術的自覺は皆無である。

○釋尊の高弟にモクネンソソシヤとアナンソソシヤが居られた。前者は智力に富み、後者はバラモンの神通力に秀れてゐた。二人の高弟の力が無かつたなら釋尊の價値は半減したに違ひない。神通力、それはどうも奇術(御方便)であつたらしい。(吉村一雄氏談話)



二代目天目勝



初代米路天勝(明治三十三年八月)
米路天勝(歌舞伎座テニ撮影)

○先頃歿した世界第一の奇術師、ハリイ・フォーチニーは、常に牧師のやうな風采をしてゐた。彼はウイスコニン州のアルトンといふ小さな田

舎町の牧師の子息であつたのである。

○日本奇術界の大立者、故松旭齋天一は幼少の折、某寺の小僧になり、修業して奇蹟を現せんと志し、種々體驗の結果變心、遂に奇術師に轉向した人である。

○日本奇術界に於て、同好者数の第二位は宗教關係者である。

○アブラカダブラといふ有名な呪文があるが、これは Ab. Ben. Rutch.

Aea Dooeth の大文字だけとつて綴つたもので、ヘブライ語の「父なる神」子なる神及び聖靈」といふ意味である。效驗は悪魔除け。

現日本の奇術研究家の一人、天城勝彦(阪本種芳)氏は、度々その著述の題名にこの呪文を用ひられた。

○十二、三世紀の人々は、悪魔の具體物としての存在、又は憑依的實在を信じてゐた。教會は眞面目に魔法禁止のふれを出したり、魔法を使ふ妖女としての嫌疑で、多くの人々を處刑した。

○キリスト教と奇術に就ては、TAMC會報第四卷第二號に『舊約聖書に於ける魔術』柳澤義胤氏著がある。

○次第に神道化(?)された奇術に稻荷魔術がある。阿部徳藏氏の著『稻荷魔術の由來』にその詳細が述べられてゐる。

術者たる神道齋狐光は常にこれに宗教臭を帯びさせやうと腐心したもので、らしいが愉快な事に、彼狐光師の服装はこの努力を遂に失敗に終らしめてしまつた。その神官(?)振りはしばしば阿部氏の著述と共に紹介されてゐるから、既にお氣付きの方もあらうが、装束の着け方、持笏の形

等、間違ひだらけで如何にも偽神官然としてゐるのである。

醫學と奇術

○日本に於て、最古の奇術は醫學であつた。

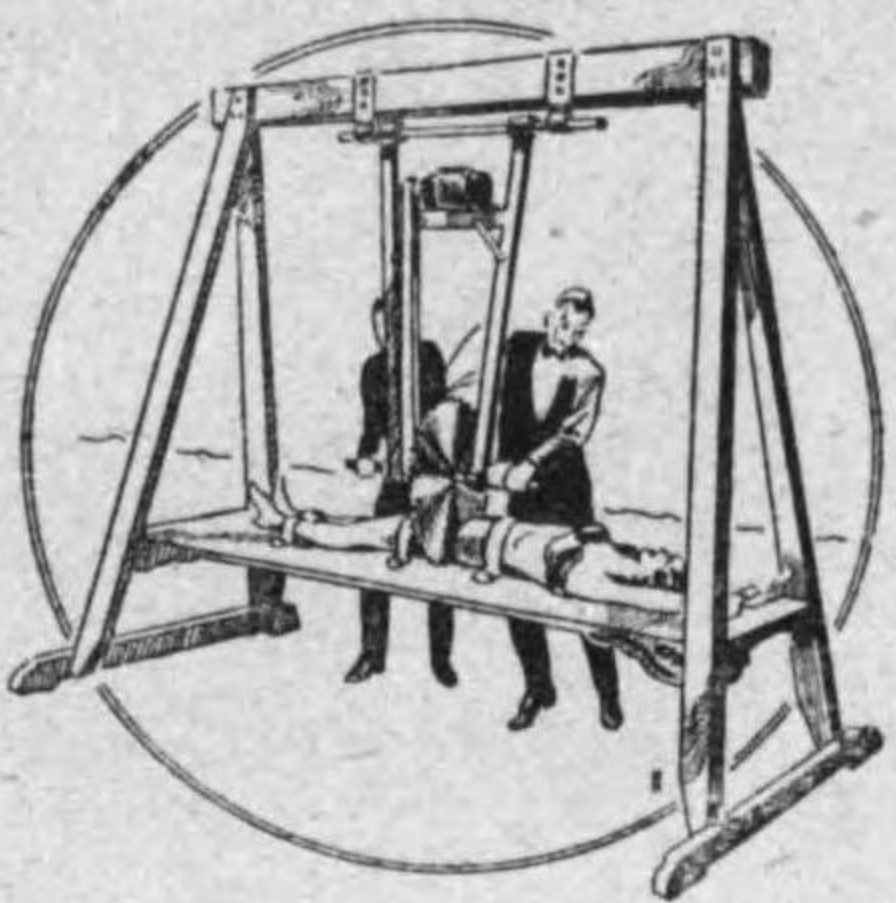
○現在の同好者中、最も多い職業は醫學關係の人々である。

○醫學と政治家と宗教家と、も一つ教育家は古代に於て——未開の土地は現代でも——同一人であつた。

奇術には、そのいづれにも共通の關係ある或暗示を持つものが多數ある。

○知人の一外科醫曰く、

『僕は奇術をやるやうになつてから、非常に手術が上手なつた。これは僕自身、何か不思議な能力があるといふ自己暗示が、奇術によつて起きた結果ではあるまいかと思へる』と。



最新の胸切り奇術

○子供を診察する前に、手品を見せるお醫者さんがある。子供はこのお醫者さんの來るのをとても楽しみにしてゐるさうだ。

○動脈硬化症の人は四つ玉をやるが良い。非常に効果があるさうだ。

生命と奇術

●『奇術療法』又は『奇術療院』など出来てもよいと思ふ。

○大魔術『胸切り術』や『首切り術』のやうな大手術が、醫學界に完成する日は何時か? この奇術がそのまま、實用に供せたら全く素晴らしいものだ。いろんな空想が走る。

○奇術家は一般に長壽である。不思議を愛すといふ事が、何か長命の秘訣になるのではあるまいか。

○有名な佛蘭西の魔法學者エリファス・レビの名著『The history of magic Book』中レイモンド・ルリーの傳説中に、不老不死の靈液に就ての話がある。

○『實に奇術研究は、ホルモン以上に效く若返り法であつて、雙鬢成絲吾未老、人生五十尚青春と、いつも潑瀾たる生氣を呼び起すことの出來る好個の資料である』これは横濱某院長H氏が或書に述べられた言葉である。

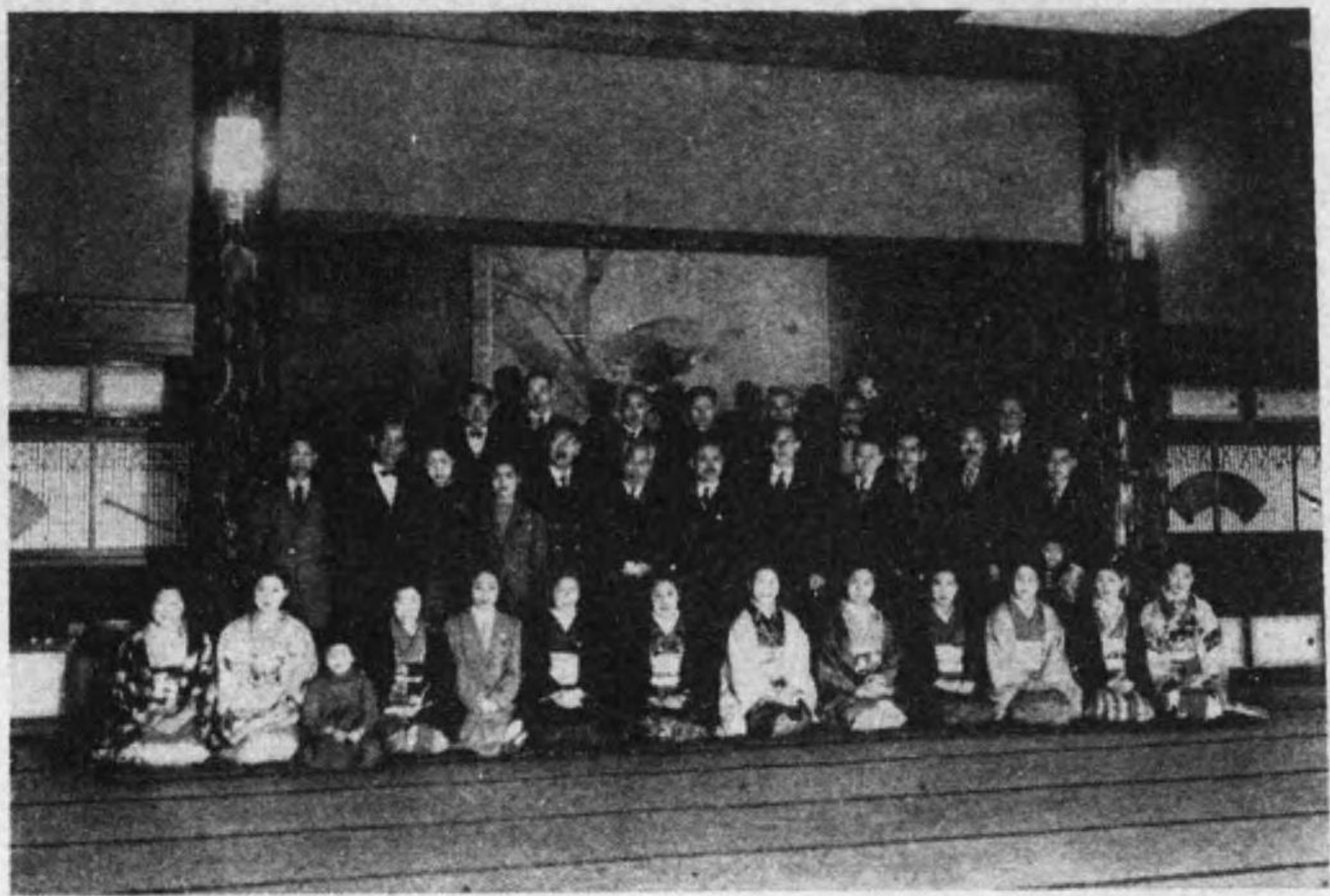
科學と奇術

○分類された奇術の一種に『科學的奇術』がある。併し、奇術の大部分は純物理學的なものであるから、こゝでいふ科學的奇術は『物理化學を主體として形成された奇術で、手練や演出技術を多量に要さぬもの』を云

ふので
ある。

○最近の
或時代
には、
宗教家
が魔法
(「奇
蹟」を
使ふも
のと思
はれて
ゐたの
に、そ
の當時
は科學
者が魔
法使ひと
同一であ
ると信ぜ
られてゐ
た。

一三八〇年フランスのシャルル五世、一四〇四年にはイギリスのヘンリー四世、一四一八年にはベニス共和国などで、化學的操作に必要な火爐その他の科學器具の所有者を魔法使ひと認めて投獄した。



(末年五十和昭)會集回一第會協術奇本日
勝天代初側右のそ 勝天目代二が性女の織羽色薄央中

●それより稍々後年、ヨハン・パプティスト・ホルトは金屬酸化物の還元法や、それに附随するガラスの着色法を基礎とするいろ／＼の工業の基礎を築き、遂に自然哲學と魔法を分離せしめる事に貢献した。

○科學の發達は練金術から始まつた。練金術の流行は、奇術的思想と考察による。

この三段論法からして、奇術は科學の生みの親であるといへやう。

○中世、ロージヤ・ベロコンやゲルバートが地球の大きさを計つた。その測定は現代のそれに近い程優秀なものであつたが、彼等がその時代に受けた報酬は『魔術師』としての告訴であつた。(當時の魔術師の名には悪魔としての悪意がある)

政治と奇術

○十九世紀、佛蘭西政府は合邦以來論争の絶えぬアルヂニアに、自國の勢力を強める爲、當時の大奇術家、ロンバート・ハウンディン氏に内命した。ハウンディンは、彼の創作した數個の奇蹟を携へてアルヂニアに旅行した。アルヂニア人は、ハウンディンの超靈力(?)に驚異の眼を見張り、佛蘭西と争ふ事の不利を認め、佛政府の意圖する處は達せられた。

○太古の政治家は度々奇術家(主として宗教家)を利用して治安の維持を計つた。又執政方針の具體的會議に参加した實例がある。

だらうか? 想像しただけで楽しくなる。

○本年九月十日付都新聞に次のやうな記事が掲載された。

戦場の奇術

手品師中尉が忽然と部隊を消す

ドイツの雑誌が珍しく英國の兵隊のことを褒めてかう書いてゐる。

デイリーメール紙の報道によると、英國のナイル軍には驚くべき兵隊がある。彼はジェスパー・マスケリンといふ中尉だが、大體が英國でも有名な親代々の手品師の生れで、彼が軍隊に入る前は、方々の舞臺で觀衆の目の前から美しい女を煙の如く消してしまふといふ妙技を振つてゐた。

軍隊に入つてからも、これが役に立ち、専ら軍用擬装について研究し、忽然として彼の部隊を消すといふ鮮かな手際を見せてゐる。

(後略)

戦争と奇術

○戰略の心理と奇術心理は實によく似てゐる。

○奇術軍才にたけた軍將は、戰場を舞臺とする偉大な奇術演出家である。

○舞臺奇術のバックと、照明の智識に優れた人を、總ゆる軍備、防空都市などの迷彩にその才能を振り向けたら、素晴らしいものと思ふ。

○慰問袋には必ず一、二種の奇術材料を入れる事にしてゐるが、御禮狀によると前線では最もよろこばれてゐるものゝ一つであるらしい。

○奇術家群を、第五列として敵國に潜入させたなら、どんなに効果がある



師術奇業職高最本日
氏海天田石

迷信と奇術

○迷信を最も正確に解剖出来るのは奇術家であるが、迷信を最も誤解するのも奇術家である。

○迷信を論ずるには、迷信界(?)に突入して、最側近の觀測と體驗を行

ふ必要がある。

○占ひや呪ひが迷信であるかどうかは別として、それらが多くの奇術書にタネアカシと共に掲せられてゐる事は、洋の東西を問はず同じやうに見出せる。

○手札や人相や星占ひ等の書物を販賣してゐる奇術家がある。

●靈術教授会で手品のタネを賣つてゐる處もある。某催眠術会で手品本やタネを賣つてゐると共通した何物かがある。

●奇術を好む人は、易占やその他の神秘的物をも好む。又はそれらに敏感である。

●右の事柄は、奇術が易占や咒術と同じく不思議といふ現象を持つてゐるからだ。

○奇術を行ふものは、大抵迷信打破論者であるやうに思つてゐる人が多いが、強ちさうとは限つてゐない。

○奇術には迷信を打破する力がない。

○奇術で迷信を打破出来ると思ふ事は迷信である。

○奇術は大衆に神秘の實在を暗示する。

●奇術が存在する以上迷信は存続する。

○迷信や神秘論の存続は、奇術の効果を増援する。

○神秘にあこがれる精神が人類から失はれない以上、迷信は消滅せぬ。

○迷信にもいろ／＼ある。

宗教的迷信

科學的迷信

迷信的迷信

その内でも最も無害なものは宗教的迷信である。

○今の世に神話をそのまま宇宙の眞理であると考へる者はあるまい。併し、神話を聞いてゐる時の人の心は美はしいものだ。

精神の美はしい糧としての迷信は、理論上如何に馬鹿けてゐても存続させておき度い。

○迷信を語る人の中で『宗教』と『信仰』を混同してゐる人が多い。それは『奇術』と『詐術』以上に異なるものだ。

○今の世の迷信打破論者は、その理論が理性から発生したものより、感情や御都合から發したものが多く。

○多くの人間は、自己の信仰してゐる信仰以外は總て迷信と稱し度い感情を持つてゐる。例へば、『科學宗』の人は『神佛宗』を、『神佛宗』の人は『科學宗』を敵視し、迷信と思ひたがる。

○現在迷信中で最も世に多くの信者を持つてゐるものは、醫學的迷信である。

○トランプ奇術をやると、よく『うらなひをやつてくれ』といはれる。

奇術にタネのある事を承知の上で、外見の神秘的現象に魅せられて發する大衆の言葉である。

迷信の種をあかしても、迷信信者の根絶せぬ由縁、かくの如し。

○迷信打破論者は事の眞相に觸れぬ先から、迷信と銘名すべき部分の材料

を把握せんとし、迷信家(?)は、自身疑問の残つてゐるものでも、それを擁護せんと姑息な手段を弄する傾向がある。

○迷信打破とはいへ、現在のそれは神秘否定論から一步も出ず、甚だなきけない状態である。

○今の迷信打破家にも、神秘肯定者にも、虚偽と偽瞞と錯誤がある。

○理性と感情が一致せぬ以上、人間界から迷信は消滅せぬ。

○感覚には暖味があるが理論は冷たい。

此處に迷信發生の必然性がある。

○優れた醫師は身體と藥品から神秘を悟り、秀でた技師は一個の鐵ビョウウからさへ、それを感得する。

心靈現象と奇術

○心靈現象や靈術法力と稱するものは、神靈や靈魂の實在及び力の證明にはならない。何となれば、それらの現象と同一のもの、又は近似せるものを、趣味奇術によつて行ふ事が出来るからである。

○心(神)靈力は在るべきものに違ひないのだが、それが現在までの心靈研究者や法術家によつて演じられてゐる戯技同様の現象であるとは考へられぬ。

●現在までのそれらの現象が純正であるならば、神靈や靈魂などといふものは甚だたわいな存在である。

●假に、今までの心靈現象が全部眞實であつたとしても、そんな手品に等しい現象で、それらの力を證明せんとするのは心(神)靈に對する甚だしき冒瀆である。

○科學者であり、著名な

心靈學者であるサー・

オリヴァー・ロツヂや、

名探偵小説家コナン・

ドイルに折紙をつけさせ

せた靈術師ジュール

ス・ザンチック夫妻は

その最後に於て彼等の

以心傳心術のタネ傳授

の廣告を、奇術雜誌ス

フィンクス(アメリカ)

カ)に掲載した。

●同一現象も種があれば超奇術、種がなければ超自然現象といはれる。

○現在の奇術研究上から見ると、

『心靈現象は奇術(手品)現象なり』といふ假説は、成り立つが、

『心靈現象は眞現象なり』といふ假説は、少しも裏書きするものがない。



手品本に載つてゐる氣合術



心霊奇術のタネアカシ一片

○現在日本の霊術家で物體浮動現象の大家K氏や、過去の有名な霊術師三田光一等は元を質せば一介の手妻使ひであつた。

○近世奇術師中の偉才、米人ハアリー・フリーデニー(約十五年前歿)の奇術を、心霊力の證明に使つた心霊家——英國心霊大學校長J・H・マツケンジー氏——がある。

○あまり優れた奇術を演じると、大衆は『彼は單なる奇術家ではない。彼は超自然力を持つてゐる靈能者だ』とさへいふ。

○最近物故した日本心霊科學協會の淺野和二郎氏が、某著で『今まで多數の心霊現象や實驗會に立會つたが、詐術の疑ひの無かつたものは、僅か四、五回のみであつた』といふ意味の事を述べてゐる。

○心霊現象や靈術法力などの奇術的技法解剖を行つても、その信仰は打ち破れない。

○同じ條件で宣傳しても、靈能者の奉讃會とインチキ解剖會では、前者の方に數倍の人が集る。

○人間は發いたたり、攻撃したりするより、讚め稱へたり信じたりする方が好きである。此處に『迷信打破の會』や『信仰排斥の會』の盛り上らぬ根本原因があるらしい。

○『靈魂の實在を否定すると靖國神社の奉祀理由が無くなる。故に靈魂の實在を認める』こんな言葉を吐く人がある。最下等の人格しか持ち合せぬ人だ。神や靈魂の存在に就ては、神代七世と同じく信じるべきもので論すべきものではない。

○すべての法術的奇術(自然奇術)はその科學的理論を知つて演じるより信念によつて行つた方が容易である。

○心霊現象を信じてゐる人と、さうでない人に同時に奇術を見せると、前者の感歎は甚だ大きいが、後者には全然關心を持たぬものすらある。

○奇術實演者にとつて、心霊信者は最もよい觀客である。

○面白い事に、奇術の上手な人程、虚をつく事が下手である。

情事と奇術

○情事と純奇術の關係には特に述べる事はない。次に少々書き並べたものは、易占奇術や、妖術奇術に關するものの一である。

○エストニアの俚談に、

『或者奇術を好み、鳥語を解したが、一層進んで夜中の秘密を明めんと方士に切願し云々』とある。この場合の『奇術』といふ言葉には、とんだ意味も含まれてゐるのだ。

○『珈琲の魔術』といふのがある。クロザル教授の發表したもので、珈琲による愛の占術の事である。

○右と同様なものを卵黄、又は溶解した鉛で行ふ方法もある。

○又、同じ目的の占術に『紙片』『パン菓子』『水と小石』等を用ふるも

犯罪と奇術

○『奇術は詐術である』とか、

『奇術は人を瞞す悪い技術である』といった人がある。

これらの人は、刀劍商を見て凶器を購ふ店と稱し、天文學者を指して、天災地變を造る者といふに違ひない。

○その形態と手段が同一でも、その目的が趣味であるか犯罪であるかにより、奇術と詐術が判然と分れる。

○奇術趣味家に悪人はない。

○大魔術師ネクタネブス(エヂプト人で呪咀、治病、占術、大軍を破る術、軍艦を沈没する術等に優れてゐたが、仲間にあつて排斥された大魔術師)が、マセドニア王ヒリツプの妃、オリンピア女王を魔術によつて犯し、その因果で最後に我が子(王子)に殺される物語りがある。

如何なる超自然力を持つ者にも因果應報の天理は厳正である。

○奇術を犯罪に用ふ事は絶対に出来ない。何故ならば、犯罪に用ひられた奇術は、すでに奇術ではないからである。



(歳八十) 勝天代初
てにクーヨニニ

の、及び指輪や腕環による魔術的通信法があるが、本筋の奇術研究には不要の事である。

○『珈琲の魔術』の目的に似たもので、現在我が國の花柳界で行はれてゐるうらなひに『筈、履物、觀世より、煙管、灰、お茶、三の糸、小楊子、綾先、さらし木綿、庖丁、』などを使ふものがある。

○『色道吉凶の占』(江戸戯作者英泉著『枕文庫』第四輯)(新井白蛾先生傳授)

『今様風俗好女談合柱』(春信)

『男女札開節用集』(江戸末期の艶書)

『世志此鏡占』(遊子軒金鱗著)

『戀愛占易』(支那書百數十卷より情事に關する所のみを摘出篇纂した書物)

これらは占易奇術中の情事に關するもの。

○『閨微草堂筆記』中卷一「深陽消夏録」の項に、奇怪至極な閨房的忍術が記されてあるさうだ。

○『情海異聞』(支那書)には隱身術を用ひて女性を手に入れた物語が出てゐる。その中に、糞尿を頭から浴びせかけて魔法を破ることが述べられてゐるが、愉快な破術法である。

この隱身術は、岡上之杭人が皆傳するもので、今粵中陸豐の諸邑に頗る傳播した。家運の盛んな家や、犬を飼つてゐる家には這入れないさうだ。

○三千世界の龍王を皆捕へて一つの小さな瓶に封じ込んだ程の靈能者、一角仙人も、美女に心うばはれ、慾心轉生遂成淫事て忽然と神通力が消えたといふ。(法苑珠林卷七十一欲蓋篇五欲部)

●久米仙人の飛行術破綻も女性が原因である。心すべきは女色也。

○『蠱術』『女裝術』といふのがある。どちらも愛の魔術の一種である。

○バラモンの魔法ラテイラ・ハスヤに『愛慾不能者とならしむる法』がある。

忍術と奇術

○忍術は身心の鍛錬による一種の自然奇術である。

○越後の『飛加藤』(長尾謙信春日山の城下へ常陸國秋津郡から來た者)が行ふ忍術の中に、印度僧の演じるマンガウ樹の奇蹟と全く同一の奇術があつた。

○現代の忍術家F氏は一寸した手品も出来る。

彼氏の忍術演技に付て、彼氏自身は決して精神現象であるとは説明しないのに、見る人々の多くは、精神力の偉大さに驚いたといふ。奇術家が心算奇術を演じた時と全く同じ觀衆心理である。

同氏のからすると、虚をつく事も忍術の一手らしい。即ち、持つて居ない書物を持つてゐると稱し、出来ない事を出来るると主張する類である。

奇術隨想

○マジックのある状態を捉へて、これがマジックであると論ずるのは、恰かも水は海であると論ずること、少しも變らない。

○マジックを藝術であると既に斷定した人があれば、それはひいきの引倒しになる。

マジックは今向上の途上にあるのだ。

●安來節や漫才を藝術と稱すると同じ感情に於て、奇術を藝術と呼ぶならば、これも絶對お断りである。

○奇術の美味さは、奇術の上手さと平行するとは限らない。

○感情と思想を表現する奇術は最高の藝術となる。

○他の目的の爲に演じる奇術技法は、正確な意味で奇術ではない。

奇術家

○優れた奇術趣味家は必ず善人である。

○優れた奇術家は必ず小膽細心である。

○奇術家を分類すると次の如くなる。

- 1 奇術研究家
 - 2 奇術趣味家
 - 3 奇術師
- この内の二つ、又は三つを兼ねてゐる人もある。

他にファンと材料屋がある。材料屋は前記の奇術家を兼ねてゐる場合が多い。

○奇術趣味家には、愛煙家、飲酒家が非常に多い。

○現代の一流奇術家には、

阿部徳藏、坂本種芳(天城勝彦)、緒方知三郎、金澤孝、久世喜夫、木村莊六、山田治作、松田昇太郎、石田天海、松旭齋初代天勝の各氏がある。

北海道の天曉、落合、磯木、佐渡の高津、大阪の佐々木、森口、京都の吉村、兵庫の千頭、新宮の狼谷、臺灣の佐藤、島根の依、満州の鶴岡、栃木、大連の柴田、佛印の伊藤、ロシアンゼルスの上の諸賢以下、四百五十名近くの奇術同好者がある。これは小生と文通、又は名刺交換して御住所御芳名の判つてゐる方々だけであるから、他にまだ隠れた熱心な同好者が居られるに違ひない。

○職業奇術師の数は不明だが、四五百名位、ゐると思ふ。手元にある資料を一瞥すると、名刺廿二枚、日本奇術協會のパンフレットで(重複するものを抜いて)十八名。ポスター及びピラ其他で六十三名。計百三名だから、詳細に調べると千名位になるかも知れぬ。

○職業奇術師は、無闇に『松旭齋』を名のつてゐるが、本當の松旭齋一黨はそんなに居ない。松旭齋の宗家天一師から名前を貰つたものゝ名簿は、松旭齋天洋氏の亡父(?)が記念に發行したパンフレットに出てゐるし、その後の事は、現存の初代天勝氏が知つてゐるから、偽物調べを

したら相當澤山の別派松旭齋が現はれる事だらう。兎に角、松旭齋が奇術師の代名詞となつた観さへあるのは、天一及び初代天勝氏の偉大な力であらう。

奇術會

○或原因の爲に、奇術が劇場興業物として次第に凋落の跡を辿りつゝある現在、反對に社交界や一般家庭にはもてはやされ、非常な勢ひで流行して居る。その一つの力強い現はれとして多くの奇術會がアマチュアにより組織された。歐米には特にこの傾向が著しく、米國では千人以上の會員を有する一大社交機關となつてゐるものすら出来てゐる。

○アマチュア奇術會の盛大な動きは次の如き順位であるといはれる。(今次大戰前)

- 1、アメリカ
- 2、イギリス
- 3、ドイツ
- 4、オーストリー
- 5、チエツコ
- 6、デンマーク
- 7、フランス

○我が國に於ける奇術會は次の通りである。

- T・A・M・C 東京アマチュア・マジシアンズ・クラブ
- K・K・K 關西アマチュア・マジシアンズ・陽友會
- W・A・M・C 和歌山アマチュア・マジシアンズ・クラブ
- 北海道アマチュア・マジシアンズ・クラブ

- S・A・M・C 佐渡アマチュア・マジシアンズ・クラブ
- B・A・M・C 播州アマチュア・マジシアンズ・クラブ
- 新宮アマチュア・マジシアンズ・クラブ
- ミリオソ會
- アラデン・オブ・ランプ・クラブ

(國際奇術研究會合同)

M・S・T・クラブ

奇樂同人會

趣味の奇術グルツペ

東京奇術同好會

東京奇術俱樂部

マリニアン・クラブ(大阪)

臺中奇術研究會(臺灣)

瀬戸内海アマチュア・マジック俱樂部(廣島)

南加マジシアンズ・ソサイテイ(米國在邦人)

奇術同巧會(西宮市)

日本奇術協會(職業家團體)

J・M・A 日本奇術聯盟

其他、小さな集り又は休會中のもの等が約三十ヶ所ある。

雜篇

○奇術の數は二萬二千種以上にのぼつてゐる。(昭和十五年六月、長谷川調へ)

○器用な人が奇術を習ふと、初めの内は非常に急速な進歩をするが、間もなく停滞して仕舞ふ。かへつて無器用な人の方が着實な進歩をとげる。

○妖女とか、妖婆が最も多く現はれるのはアイルランドの小説である。奇術師はアメリカの小説中に屢々出場する。

○日本の火渡り(神道儀式)は世界的奇蹟の第八位であると認定した人(ジェームス・リード)がある。



影撮念記會演試會好同術奇京東

會大術奇界世ツイド(年八三九一)證加參

奇術の讚

○言語風俗習慣が違ひ、年齢性別の差異があつても、奇術は等しく興味を以て迎へられる。この萬人共通の興味こそ奇術の持つ魅力であり特性である。

○時代の推移と共に平行して進むべき趣味は智能的構成であらねばならぬが、その條件に完全一致するものこそ、この奇術趣味である。

○勝負事のやうに勝敗による不快の感情もなく、年齢、時、所の如何を問はず、手軽に行はれ、絶對萬人向きの優れた慰安である。

○奇術は、人智の開発、文化進展の根元たる好奇心、究明心の涵養に絶大な効果があると同時に、各自自己の職域改善に、活用し得る可能性がある。一例を上げれば、機械奇術の仕掛けはそのまま、機械工業方面の發明新考案に素晴らしいヒントを與へ、手練奇術の技法は、技術關係者に重大な暗示を與へるに違ひない。

○奇術はそのまゝ、人間の智識と靈性の表現、魂の藝術であり、夢の美學、精神の糧である。聖戦下國民の最高趣味、健全娛樂として一點非の打ち處なき奇術に、滿腔の讚辭を捧げて敢えて憚らぬ所以である。

奇術徒然草(終)

921
112

製本控

昭和七年五月五日

921	函	112	號	年	月	日
考術徒然草						
備考						

草奥付

品番 六六

刷所 茂智

921
112

冊
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

昭和十六年十月十日印刷納本
昭和十六年十月十五日發行

不製
複許

奇術つれづれ章奥付

非賣品

著者兼發行者 長谷川智
東京市品川區北品川一ノ二二六
電話高輪(四)八二三六番
印刷者 袴田茂
東京市芝區新橋四ノ二十二
印刷所 正美堂印刷所

921
112

終

